

2016年度 事業計画／予算



旧 HMFS における地域主体による森林保全・管理を取り戻すため、モシ県下の旧 HMFS 沿いにあるすべての村が団結して立ち上げた KIHACONE。彼らがその代表者たち。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンにおける地域主体による新たな森林保全・管理の実現に向けた取り組み

(1) 政府レベルでの取り組み

① 大統領への問題提起

政府レベルでは、これまで中央政府では関係省庁および州政府、地方政府では県、関係組織では TANAPA および KINAPA に対する働きかけを続けてきており、手は尽くしてきたと言えます。唯一残っているのは大統領であり、2016 年度は大統領に国立公園の問題を直接提起することを目指します。またこれにより、各部門への問題解決に向けた圧力が高まること狙います。

② 地方政府レベル

a. 旧 HMFS に接する他県との協力体制構築

現在 KIHACONE は、キリマンジャロ山にある4県（モシ県、ロンボ県、ハイ県、シーハ県）のうち、モシ県にある40村（※）により構成されています。これは旧 HMFS の大部分（約6割）が属していたのがモシ県であったことによります。（※人口の多い村が分割され、40村となった）

しかし国立公園の問題はモシ県にのみ留まるものではありません。そこで2016年度は、KIHACONE の活動を残る3県にも広げていきます。なかでも旧 HMFS の3割を占めるロンボ県との関係構築に最優先で取り組みます。これが成功すれば、旧 HMFS の9割を占める地域による協力体制が確立されることとなります。

b. 県議会での HMFS 返還要請決議

2015 年度に可決したものの、宙に浮いたままとなっているモシ県による HMFS の返還要請決議について、新議会による再可決を目指します。同時に、ロンボ県との共同体制が確立した場合、同県県議会においてもこの要請決議の可決を目指します。

(2) 国際レベルでの取り組み

① UNESCO 対応

キリマンジャロ山の問題が取り上げられるかは、毎年開催されるユネスコ世界遺産委員会で議題として取り上げられるかにかかっています。2016 年度は、2015 年度末に提出した問題提起書に対する回答を待って対応を検討することとします。

② 「世界の力を」署名キャンペーン

昨年度開始した「change.org」による署名キャンペーン (<https://t.co/n5LRzXpbf>) による署名を、8 月にタンザニア天然資源観光省大臣、タンザニア国立公園公社長官に提出します。

また、署名活動をキリマンジャロ山の村々でも展開し、なかなか届くことのない「地域住民の声」を直接政府、国際機関に届けます。

(3) 国立公園法（補助法）および州・KINAPA による特例措置の無効性の調査

① HMFS を含むかつての森林保護区を取り込む形で拡大が実施されたキリマンジャロ国立公園。その根拠となっているのが 2005 年に施行された補助法（GN278）です。しかし人々の生活権にまで国立公園領域を拡大することを定めたこの法は、地域住民への事前の十分な説明なしに実施されました。これは、この補助法が施行にあたっての手続きを怠っていたことを意味しており、法としての有効性について調査します。

② キリマンジャロ州当局と KINAPA による旧 HMFS の利用に関する独自の取り決め（特例措置）が、タンザニアの国立公園法に反している可能性があり、その違法性についての調査を行います。

(4) 地域住民主体による HMFS の新たな森林保全・管理の枠組み構築

2015 年度に完了させることができなかった森林保全・管理枠組みを完成させます。また枠組みについては、専門機関による検証を受けることとします。

(5) 旧 HMFS（現国立公園）での地域住民による植林の再開

これまでの政府に対する働きかけ及び UNESCO に対する問題提起の結果、環境保護活動を含む国立公園内での住民による一切の行為を排除するという KINAPA の姿勢は、厳しく非難されつつあります。そこで 2016 年度は、旧 HMFS での地域住民による植林活動の再開を目指します。この植林を実現することは、長らく禁じられていた旧 HMFS での植林活動を地域住民の手に取り戻すことを意味しており、以後彼らが植林から排除されることはなくなると考えています。

表2【各苗畑別育苗計画】

単位：本

グループ名	村	植林	販売	配布	合計	備考
TEACA	Tema	10,280	1,100	5,220	16,600	
Olimo	Tema	200	0	1,600	1,800	小学校苗畑
Manu	Manu	3,500	0	0	3,500	小学校苗畑
Mowo	Mowo	4,050	0	200	4,250	村人グループ
Kilay	Ruwa	2,000	0	0	2,000	小学校苗畑
Kokirie	Kokirie	615	200	1,685	2,500	小学校苗畑
Immanuel	Lole	2,550	750	2,700	6,000	村人グループ
Mshiriwa	Uru	1,110	200	2,000	3,310	中学校苗畑
合計		24,305	2,250	13,405	39,960	

2. 養蜂プロジェクト

新たにキリマンジャロ山麓ムウィカ郡ロレ村のイマニエルグループを対象として、改良養蜂箱による養蜂プロジェクトを開始します。ただし 2016 年度は研修による技術習得に重点を置き、設置する養蜂箱は 2 箱のみとします。

3. 改良カマド普及

- (1) キリマンジャロ山麓キボシヨ郡シンガ村において、新たにエンザロタイプ改良カマドのカマド職人の養成を行います。また、同村に同カマド 5 基を設置します。
- (2) パレ山麓で作られている蟻塚の土を使った鍋掛口を使用した改良カマドを試験導入し、エンザロタイプ改良カマドと熱量、薪消費量、設置コスト、使い勝手についての比較を行い、今後改良カマドのバラエティに加えていくかを検討します。
- (3) キリマンジャロ山麓キルワ・ブンジョー郡マヌ村のマヌ小学校に、学校給食用の大型改良カマドを設置します。

4. 伝統水路補修

溜め池を復旧したキディア伝統水路ですが、流路の一部区間で水路の土手がカニの作る穴によって集中的に崩される状況が続いており、被害の酷い場所は導水管を埋設する工事をし、水を通すようにします。

5. 診療所建設

老朽化と医師の不在が問題となっているテマ村のナティロ診療所（教会系）にかわる診療所として、同村で村営による新たな診療所の建設が開始されることになりました（医師は県が派遣）。当会は村からの要請を受け、基礎工事に必要となる石材の支援を実施します。

6. 研修支援

- (1) コーヒー接ぎ木研修
テマ村より 5 名をキリマンジャロ原住民コーヒー協同組合（KNCU）に派遣し、新品種コーヒーの接ぎ木研修を実施します。
- (2) 養蜂セミナー
新規に養蜂プロジェクトを開始するロレ村のイマニエルグループおよび TEACA のリーダーから計 6 名をルシヨトの Mwamboa 養蜂グループに派遣し、改良養蜂箱による養蜂研修を実施します。

7. その他

① 「エデンの森」ステッカー作成

当会は地域住民の内発性、自発性に基づく取り組みとその実現をもっとも重視しています。キリマンジャロ南山麓にあるテマ村、キディア村、モヲ村、リャコンピラ村の 4 村では、村人たちが長く村に接する森を大切に守り続け、キリマンジャロ山の旧 HMFS の中でももっとも豊かな森が残されています。村人たちは彼らが守ってきたその自慢の森に「エデンの森」という名前を付け、シンボルマークを作りました。

2016 年度、当会はクラウドファン্ডを利用し、この「エデンの森」のシンボルマークのステッカー作成にチャレンジします。目標は 4 村の村人全員（約 11,000 人）がステッカーを手にする事です。ステッカーは彼らの自慢の森の視覚化、日常的な意識化を狙ったもので、これにより森を守っていくという彼らの気持ちの側面支援（励み）に繋げていくことを目的としています。

② TEACA 裁縫教室

現地で入手が困難となっている編み機の消耗部品（タッピ）について、日本国内でインターネットにより調達協力を呼び掛け、現地である程度回転在庫として確保できるようにします（編み機は日本のメーカーもすべて製造を中止しており、消耗部品は各家庭に眠っている手持ち品などを譲って頂けるようお願いするしか方法がなくなっています）。

③ 国内国際協力イベントでの署名集め

国立公園問題の解決をタンザニア政府に求める署名活動に、国際協力イベントでも取り組みます。